島根県養鶏協会

設立50周年記念誌

Shimane
Poultry
Association

島根県養鶏協会

設立50周年記念誌

Shimane
Poultry
Association

島根県養鶏協会の概要について

1　設　立

（1）昭和46年８月に県養鶏協会設立を決定し、昭和47年４月10日出雲市農業会館において会員100余名が参集し島根県養鶏協会が立ち上げ。
創立時の会員数　180名（初代会長は　加納敬蔵氏）
本年度で52年目を迎える。

（2）設立の目的
鶏卵の消費は年々増大の傾向にあったが、卵価の不安定、公害問題、衛生対策等を組織的に対応していくこと

2　現在の組織（令和５年７月現在）

会　長：竹下正幸氏（７代会長：平成14年から22年間）
会員数：正会員17、賛助会員17　合計34団体で組織
※正会員：生産者　賛助会員：農協、飼料会社、ブリーダー、畜産施設機械会社
顧　問：県議会議員２名（五百川純寿議員、生越俊一議員）
事務局：（公社）島根県畜産振興協会

3　主な事業等

会員相互間の親睦を図り、諸課題を解決する。

・鶏卵品質共励会の実施による卵の品質維持、強化（協会発足７年目；昭和53年度から実施し、本年度で45回目を迎える）。
・福祉施設等への卵の配布（平成元年度から毎年実施を行い本年度で35回目を迎える　通算提供量：21t）。
・JAの農業祭等における卵配布を行い、販売促進を図っている。
・各種販売促進事業を実施（県の協力を得て、テレビでCMも実施）。
・しまねのたまご～美肌手帖等を作成し、たまご消費にかかる啓発活動を実施。
・島根県養鶏協会独自で、毎年県内店舗で市場調査を実施。
・技術、衛生研修会を独自ならびに鶏病研究会の協力を得ながら実施し、各会員の飼育技術の向上、飼育環境の改善、防疫強化を図っている。
・高原性鳥インフルエンザの発生時期前に防疫のための資材（ロンテック、防鳥ネット等）を配布し防止対策を組織的に実施。
平成22年の発生以来、島根県では鳥インフルエンザの発生をさせていない
・畜産クラスター事業を島根県養鶏協会（県養鶏クラスター推進協議会を組織）で取り組み、会員によるハード整備を計画的に実施。

会長あいさつ

島根県養鶏協会　竹下　正幸

島根県養鶏協会は昭和47年４月に県内養鶏家の会員相互の連絡、協調を密に、組織を通して相互利益を追及し、健全な養鶏の振興を図る目的で発足いたしました。

設立当時は、県内養鶏家180名を会員として、関係機関の協力を頂きながら、平田の加納敬蔵初代会長の元で活動を開始し、以来多くの皆様にご支援、ご協力頂き、おかげを持ちまして、本年で52年を迎えることができました。

その間の養鶏協会の活動を紹介いたしますと、昭和53年より鶏卵の品質共励会、平成元年からは社会福祉事業団への卵の贈呈、平成４年から当協会主催による養鶏研修会、さらには県内スーパー市場の価格調査等を行って、養鶏業界の安定に帰する取組を継続して参りました。

一方、会の発足当時より鶏卵は３年周期で価格が上下し、時に暴落の繰り返しを続けていますが、昭和61年には、全国で1,000万羽の増羽計画を聞きつけ、全国の養鶏家が集う増羽反対集会を島根において開催いたしました。

また、平成20年には、県、関係機関の協力を頂いて島根県飼料米協議会設立し、現在700町歩3,600ｔの飼料米生産を頂き、養鶏協会が主体で利用させて頂いており、養鶏農家自身の経営はもとより、耕作放棄地の解消や農家所得向上にも繋がる取り組みに貢献しているものと、自負いたしているところでございます。

さらに、美味しまね認証制度発足について、まずは県庁にお願いに上がり、広島県に視察研修するなど、働きかけを行いました。農家の生産物を県の外部において検証して頂く事により、安全で美味しい農畜産物の生産や消費者の信頼につながり、ひいては販路拡大に結び付くものと思っています。

さて、現在の養鶏業界は、３つの大きな課題を抱えながら、生産者の皆さんが必死になって経営取り組んでおられると思います。

１つは飼料高騰です。現在は、鳥インフルエンザ発生の影響で羽数が減少し、価格が上昇しておりますが、いつまでも続くとは思えません。再生産が可能な飼料価格、鶏卵・鶏肉価格になるよう、関係者が一丸となった取り組みをお願いさせて頂きます。

２つ目は鳥インフルエンザです。全国では昨年から今年に掛けて1,700万羽に渡る発生があり、明日は我が身と思いつつ、県内養鶏家が全力で衛生対策に取り組んで参りました。

島根県では、平成22年に発生して以来、新たな発生はありませんが、今期も関係機関のご協力を頂きながら、養鶏協会上げて衛生対策に取り組みますので一層のご指導、ご支援を賜りますよう宜しくお願いいたします。

３つ目はアニマルウエルフェアの取り組みです。養鶏協会も会員の現状把握を進め、国の指針を基に消費者目線に立った努力をして参りますので、ご指導いただきますようよろしくお願いいたします。

ご承知のとおり、島根の養鶏産業の特徴は、各自が洗卵機を所有し、パック詰めまで行って、県内を主体に生産から販売まで一貫して行っているところにあります。

養鶏協会は、そのような生産者全員が加入し、しまねのたまご、鶏肉の三大理念である「安全・安心・新鮮私たちがお届けします」をキャチフレーズとして、正会員17名、賛助会員17名、全会員34名で中身の濃い活動を、今後も協会顧問をして頂いております五百川先生、生越先生をはじめ、会員・関係機関の皆様の協力を頂いて、当協会と会員の繁栄を基本に運営させて頂きたいと思っております。

目　次

島根県養鶏協会の概要について …… 2
会長あいさつ …… 3

祝　　辞

島根県知事　丸山　達也 …… 6
島根県議会議員　生越　俊一 …… 7
大田市長　楫野　弘和 …… 8
島根県農業協同組合　代表理事組合長　石川　寿樹 …… 9
（一社）日本養鶏協会　事務局長　阪本　英樹 …… 10

記念式典

記念式典 …… 12
島根県養鶏協会50周年記念式典功労者 …… 14
設立50周年記念式典出席者一覧表 …… 15
記念講演 …… 17

島根県養鶏協会の概要

島根県養鶏協会の沿革ならびに主要行事 …… 20
島根県養鶏協会会員数ならびに役員推移 …… 24
社会貢献としての福祉施設等への卵贈呈 …… 25
鶏卵品質改善共励会 …… 27
研修会の実施について …… 28
JA祭　消費拡大 …… 32
美肌手帳・DVD・CM …… 35
島根県養鶏協会役員体制 …… 36
島根県養鶏協会会員名簿 …… 37
島根県養鶏協会会員農場位置図 …… 39

祝辞

設立50周年祝辞

島根県知事　丸山　達也

本日は、島根県養鶏協会様の「50周年記念式典」が、会員の皆様をはじめ、多くの関係者のご参集のもと、このように盛大に開催されますことを心よりお喜び申し上げます。

竹下会長をはじめとする島根県養鶏協会のみなさまには、日々、安全で美味しい卵や鶏肉を県内外の消費者へ届けていただいており、県民を代表してお礼を申し上げたいと思います。

さらに50年の長きに取り組んでこられた歴代の会員様に対しても心から感謝申し上げます。

養鶏業界が抱えておられる周辺環境というと、鳥インフルエンザと飼料価格の高騰という養鶏農家の皆様の努力だけでは解決することが困難な二つの荒波にもまれていると承知しております。

鳥インフルエンザにおきましては昨年全国で、26道県、84事例の発生がみられており、およそ1,800 万羽もの鶏が殺処分されました。

幸いにも皆様の御尽力により本県においては昨シーズンも発生をみることがありませんでしたが今期も北の方では渡り鳥が動きはじめているとうかがっています。

今年も昨年の状況が繰り返される可能性がある環境が続いてまいります。

家畜伝染病の防止に向け、昨年同様の結果が出せるよう、養鶏農家の皆さんと努力していきたいと考えています。

飼料価格の高騰につきましては、鳥インフルエンザの関わりにより、プラスとマイナスの二つの要因が生じています。

発生しなかった本県については、様々な高騰対策を講じる準備を島根県と行ったところですが、結果としては卵の価格が上昇することになった現状では、幸い県の発動を実施する必要がありませんでした。

いざ需給の状況が変わり卵価の下落が起きた場合、一方で飼料価格の高騰が続くことが予想されますので引き続き県の対策を継続することとしており、県議会のご理解を得ながら進めていきたいと考えます。

養鶏農家の皆様のお力だけで解決できない事柄については、今後とも政府を始め、各方面にも働きかけて解決していきたいと思います。

このほか、県版GAPであります「美味しまね認証」や、県産の飼料米を給与した「しまねのこめたまご」、肥料高騰に苦しむ農業者への「鶏糞の供給」など、県が進める取組にも積極的にご対応いただいており、今後も一層のご協力をお願いするところです。

さらに、アニマルウェルフェアへの対応など、今後取り組んでいくべき課題があるようですが、竹下会長のリードのもとで組織力を発揮して諸般の課題を乗り越えながら、60年、70年、100年も県内外の消費者に美味しい鶏卵や鶏肉を御提供いただくことを大いに期待するところであります。

結びに、島根県養鶏協会が益々のご発展されることとお集まりの皆様方のご健勝をお祈り申し上げ、お祝いと御礼の言葉とさせていただきます。

50周年記念式典祝辞

島根県議会議員　生越　俊一

本日は島根県議会の最終日ということで、五百川議員におかれましては議連の会長をしている関係で体があかないことから申し訳なく思いますということをまずお伝えします。

島根県議会議員として、一言ご挨拶をさせていただきます。

本日は、丸山知事をはじめ、多くの関係者のご出席のもと、「島根県養鶏協会50周年記念式典」が、かくも盛大に開催されますことを心よりお喜び申しあげます。

また、養鶏協会の皆様には、50年の長きに渡り一致団結して、県民の食に欠かせない卵や鶏肉を安定的に供給して頂いていますことに、改めてお礼を申し上げます。

近年の養鶏を取り巻く環境は、鳥インフルエンザの発生や生産資材の高騰、人手の不足など、かつてないきびしい状況にあると認識しています。

知事のご挨拶にもありましたとおり、昨シーズンは鳥インフルエンザが全国で続発し、中国地方でも鳥取、岡山、広島の３県、11事例の発生があり、250万羽を越える鶏が殺処分されました。

養鶏業を安定的に継続するには、いかに鳥インフルエンザの防疫を行うかが大事なことであります。各養鶏場におかれては、新たなシーズンを目前にして、衛生対策の徹底化に取り組んでいただきたいと思います。

現在、国におきましては、生産資材が高騰し、生産費が高止まりしている件につきましては、生産費の上昇分を生産物価格に転嫁する仕組の検討が始まっています。

人手不足に関しては、技能実習生に関わる法改正が予定されおり、大きく制度が変わると聞いており、我々県議会としてもこうした国の動向をよく注視し、丸山知事と連携しながら養鶏協会の皆様が安定的に養鶏を経営できるよう、必要に応じて国などに要望をおこなってまいります。

最後になりましたが、50周年という節目は、新たなステージへのスタート地点でもあります。養鶏協会の皆様が気持ちを新たに、関係機関との連携を一層強化して、更に歩みを進められることを大いに期待しております。

結びに、本日お集りの皆様のご健勝と益々のご活躍をお祈り申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。

島根県養鶏協会50周年、誠におめでとうございます。

設立50周年祝辞

大田市長　楫野　弘和

島根県養鶏協会が50周年を迎えられますことを心からお喜び申し上げます。

島根県養鶏協会におかれましては、昭和47年の設立以降、長きにわたり、鶏卵品質の向上や防疫対策の強化など、様々な活動を通じて、県内の養鶏業の発展に多大なる貢献をしてこられました。

大田市におきましては、農業産出額約85億円の内、畜産業の割合は７割を超え、そのうちの約３割を採卵鶏が占めるなど、養鶏業は大変に重要な産業の一つとなっております。

これもひとえに、竹下会長を始め、ご関係の皆様のたゆまぬご努力の賜物であると、深く敬意を表する次第です。

皆様方には設立50周年を契機としまして、組合員相互の結束をより一層深められ、更なる事業の推進、積極的な取り組みを通じて、県内農業の活性化に結びつくことを期待しています。

結びに、島根県養鶏協会の益々のご発展と、会員の皆様方のご健勝とご多幸を心から祈念申し上げて、お祝いの言葉といたします。

設立50周年式典祝辞

島根県農業協同組合　代表理事組合長　石川　寿樹

島根県養鶏協会が設立50周年を迎えられますことを心からお喜び申し上げます。

ひとえに竹下会長のリーダーシップと会員の皆様の団結によるところだと承知しており、心から敬意を表する次第です。

私からは卵のお話をさせていただきます。

私は先月９月に71歳になりました。

子供の頃の60年前には各農家に鳥小屋があり鶏を飼育していました。

ところが私の口には卵が入りませんでした。その当時、町には卵屋があり、毎日卵を買いに来られました。

卵が私の口に入らないのは、農家の大事な副収入だったからです。

一方、私の母の実家は、その当時養鶏業を営んでおり、母の里に行くと卵や鶏肉を食べさせてもらえたので楽しみにして行った思い出があります。

ただ養鶏業を営む叔父や叔母は年中、朝から晩まで身を粉にして働いているのを目にしており、大変な仕事だと感じていましたが、今日養鶏業を営む皆様は大変な仕事なのだと今さらながら感じています。

母の里の養鶏業は昭和40年前後に廃業をしました。島根県養鶏協会が設立するよりも前の事です。

結びの前に、先ほどから話があるように養鶏業において飼料代の高騰という課題があります。

本日、西日本くみあい飼料の社長がご臨席されており、私も取締役をやっておりますが、飼料代が安くならないかという気持ちを常に持っていますが、厳しい状況です。

さらに燃油高騰と鳥インフルエンザの問題があります。

本県においては、もう10年以上鳥インフルエンザが発生していませんが、また渡り鳥がやってくる時期になり養鶏農家をしっかり応援していきたいと考えています。

私は島根県畜産振興協会の会長もしており、一緒になってこれらの課題に向かっていくつもりです。

最後に価格問題についてですが、卵は昔から「価格の優等生」と評されていますが、これも喜ばしいことではなく、かなり安価に販売されていることから、適正な価格で販売できるよう、価格形成をしていかなければなりません。

現在、食料基本法の見直しがされつつあり、来月には関係の大会もあります。そういう機会に行政や養鶏協会の皆様としっかりうったえかけていきたいと思います。

島根県養鶏協会の益々のご発展と、会員の皆様方のご健勝を心からお祈りしましてお祝いの言葉とさせていただきます。

設立50周年式典祝辞

(一社)日本養鶏協会　事務局長　**阪本　英樹**

このたび、島根県養鶏協会が設立50周年を開催されますことを心からお喜び申し上げます。本来であれば、本会会長である米山が出席するところですが、事務局長の阪本が代わってご挨拶させていただきます。

まずは私事ですが、家内は島根県の出身です。30年以上、しばしば島根県を訪問させていただいており、本県は私の故郷と思っており、島根県養鶏協会が50周年を迎えられ、私自身もうれしく思っています。

貴協会は昭和47年４月に設立されており、肉用牛や米を主体とした島根県の地域農業にあって、協会が一貫して養鶏業界を牽引され、ここに50周年を迎えられたことは、島根県養鶏にとって誠に意義深いことであり、御同慶に堪えません。

現竹下会長を始め、会員の皆様のご努力、御尽力によって多くの困難を迎えられた中で50年を迎えられたことに敬意を表する次第です。

貴協会の長きにわたる取り組みについて、鶏卵の品質共励会を実施し卵の品質向上に努められてきたこと、社会福祉活動として、高齢者を中心とした福祉施設への継続的な卵の供給をされるということ、また特筆的なこととして「しまねのたまご～美肌手帖」を作成し消費者に配布されたり、一貫して消費者との絆を深める活動を長年継続してこられました。

さらに養鶏技術や衛生研究を島根県鶏病研究会の協力のもと実施され、会員様の飼養技術の向上や鳥インフルエンザに対する防疫の強化を図られるなど、養鶏生産者の技術の向上に力をいれていらっしゃいました。

養鶏業界の昨今の事情について話をさせていただこうと思っていましたが、先の祝辞において既に詳細に語られていますので割愛させていただきます、

日本養鶏協会につきましては、各県の養鶏協会様と協力と連携を行って事業を推進しております。各県養鶏協会様との連携は非常に重要で、私どもの協会は農林水産省畜産局と直接な関係を持ちながら、業界としての要望をあげていくということをしています。

県からのルートについては先ほど述べられたところですが、県からのルートとは別に、生産者の声を全国団体として日本養鶏協会から農林水産省に届けるというのが我々の役割です。

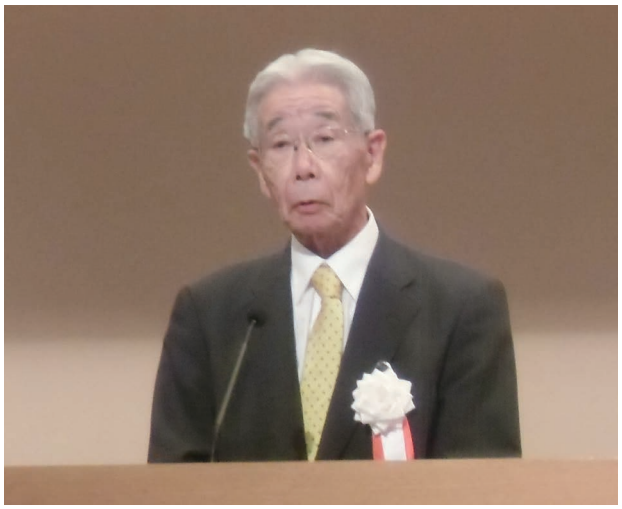
農林水産省に全国団体として要望を上げるときに、我々事務局が机上でもしっかり考えるのですが、迫力にかけることがありますが、生産者の皆様の真の声が島根県はもとより全国の要望を持って行って、初めて農林水産省は真剣に考えてくれるということです。

今後、むずかしい課題について、それを乗り越える際は、今まで以上に島根県養鶏協会ともタイアップして国に要望を上げていきたいと思いますので、引き続きご支援の程をよろしくお願いします。

最後に、会場の皆様を始め、ご臨席の皆様のご発展とご健勝ならびに、さらには設立50周年を無事迎えられた貴協会の発展を祈念しましてごあいさつとさせていただきます。

記念式典

記念式典　主催者代表と来賓の方々



御挨拶　島根県養鶏協会　会長　竹下 正幸

祝辞　島根県知事　丸山 達也 様

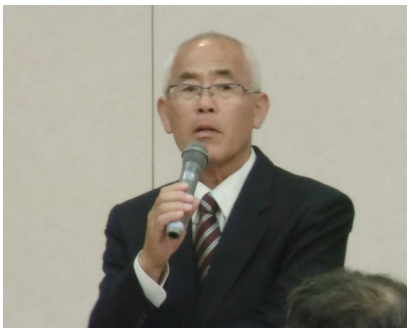
祝辞　島根県議会議員　生越 俊一 様

祝辞　大田市長　楫野 弘和 様

祝辞　(一社)日本養鶏協会　事務局長　阪本 英樹 様

祝辞　島根県農業協同組合　代表理事組合長　石川 寿樹 様

島根県養鶏協会会員からの言葉



島根県養鶏協会50周年記念式典功労者

式典に合せ、これまで島根県養鶏協会に深く関わり、支援をいただいた以下の３名の方々に功労者として表彰させていただきました。

功労者の御紹介

小影 浩雄 様

島根県経済連、西日本くみあい飼料、JA全農しまね、島根県農業協同組合畜産部で畜産業全体に関わりを持たれ、中でも島根県養鶏協会との関わりが非常に強く、表舞台、裏方の両面から長く養鶏振興にお力添えをいただきました。

春日 敏紀 様

島根経済連に続き、西日本くみあい飼料において飼料販売、防疫のための資材提供、さらに卵の品質向上のための共励会等で長きに渡り島根県養鶏協会の取り組みを後方支援してこられました。

吾郷 隆司 様

（社）島根県畜産会、（公社）島根県畜産振興協会を通し、約30年にわたり島根県養鶏協会の事務局を務め、確実かつ丁寧な運営にあたっていただきました。

設立50周年記念式典出席者一覧表

所　　属　　等	役職等	氏　名	式　典	懇親会
功労者		小影　浩雄	○	○
功労者		春日　敏紀	○	○
島根県	島根県知事	丸山　達也	○	○
島根県議会	県議会議員	生越　俊一	○	○
島根県農林水産部農山漁村振興課	管理監	藤江　弘明	○	○
島根県農林水産部畜産課	課　長	加地　紀之	○	○
島根県農林水産部畜産課	課長補佐	濱村圭一郎	○	○
島根県農林水産部畜産課家畜病性鑑定室	室　長	大元　隆夫	○	
出雲家畜保健衛生所	所　長	前原　　智	○	○
西部農林水産振興センター	所　長	田中　千之	○	○
川本家畜保健衛生所	所　長	板倉　　悟	○	○
益田家畜保健衛生所	所　長	合津　幸恵	○	○
畜産技術センター	所　長	長谷川清寿	○	○
松江市（産業経済部）	次　長	永井　秀之	○	
出雲市（農林水産部）	部　長	三代　　均	○	○
益田市（農林水産課）	課　長	橋本　秀治	○	
大田市	市　長	楫野　弘和	○	○
大田市（産業振興部農林水産課）	課　長	吉田　貴宏	○	○
安来市（農林振興部）	部　長	細田　孝吉	○	
雲南市	市　長	石飛　厚志		○
雲南市（農林振興部）	部　長	落合　正成	○	○
奥出雲町（農業振興課）	課　長	糸原　和弘	○	
邑南町（産業支援課）	課　長	金山　　功	○	
日本政策金融公庫農林水産業（融資課）	課　長	小村　健二	○	○
一般社団法人日本養鶏協会	事務局長	阪本　英樹	○	○
島根県農業協同組合	代表理事組合長	石川　寿樹	○	○
島根県農業協同組合（融資部）	部　長	田中　達也	○	○
島根県農業協同組合（融資部）	課　長	日高　賢一	○	○
島根県農業協同組合（畜産部）	部　長	石倉　　功	○	○
島根県農業協同組合（畜産部）	課　長	若月　康介	○	○
島根県農業協同組合（くにびき地区本部）	副本部長	中村　　隆	○	○
島根県農業協同組合（くにびき地区本部）	課　長	山根　敏行	○	○
島根県農業協同組合（くにびき地区本部）	担　当	多々納朋佳	○	○
島根県農業協同組合（雲南地区本部）	本部長	源　　之美	○	○
島根県農業協同組合（雲南地区本部）	課　長	野々村稔秋	○	
島根県農業協同組合（出雲地区本部）	統括部長	川上　弘信	○	○
島根県農業協同組合（出雲地区本部）	次　長	原　　崇	○	○
島根県農業協同組合（石見銀山地区本部）	本部長	川上　　隆	○	○
島根県農業協同組合（石見銀山地区本部）	部　長	谷本　康治	○	○
島根県農業協同組合（石見銀山地区本部）	課　長	山﨑　眞男	○	○
島根県農業協同組合（島根おおち地区本部）	本部長	服部　幸信	○	○
島根県農業協同組合（島根おおち地区本部）	課　長	品川　克弘	○	○
一般社団法人島根県配合飼料価格安定基金協会	常務理事	横田　　司	○	○
JA西日本くみあい飼料株式会社	代表取締役社長	神野　正二	○	○
JA西日本くみあい飼料株式会社	常務取締役	安藤　洋一	○	○

所　　属　　等	役職等	氏　名	式　典	懇親会
JA西日本くみあい飼料株式会社（中国支店山陰営業所）	所　長	嘉本　英文	○	○
有限会社山陰ネッカリッチ	代表取締役	白根　信彦	○	○
有限会社山陰ネッカリッチ	取締役営業部長	佐々木幹夫	○	○
有限会社山陰ネッカリッチ	課　長	青笹　　聖	○	○
島根米穀株式会社	代表取締役社長	山東　稔正	○	○
島根米穀株式会社	営業本部長	井手　亮介	○	○
島根米穀株式会社	営業本部長	中島　淳也	○	○
島根米穀株式会社	営業本部次長	反房　正樹	○	○
MPアグロ株式会社（中国営業部島根支店）	支店長	川端　弘行	○	○
日本レイヤー株式会社	課　長	長尾　　豪	○	○
内外飼料株式会社（島根営業所）	衛生管理アドバイザー	瀧倉　修介	○	○
豊橋飼料株式会社（姫路工場）	取締役工場長	長田　　淳	○	○
豊橋飼料株式会社（姫路工場）	係　長	山本　俊輔	○	○
豊橋飼料株式会社（姫路工場）	職　員	野村　智輝	○	○
株式会社N.G.C.	常務取締役	桒田　宏光	○	○
久保田養鶏場	代　表	久保田耕司	○	
井上養鶏場	代　表	井上　正行	○	○
	社　長	井上　純一	○	○
ヤマオキ養鶏場	代　表	安達　俊一	○	
有限会社森脇鶏農場	代表取締役	森脇　　誠	○	○
	後継社員	森脇　康生	○	○
有限会社木次ファーム	代表取締役	廣野　祐二	○	○
	常務取締役	廣野　恵子	○	
有限会社福田ファーム	取締役会長	福田　賢治	○	○
	代表取締役	福田　竜哉	○	○
有限会社旭養鶏舎	取締役会長	竹下　正幸	○	○
	代表取締役社長	竹下　靖洋	○	○
	代表取締役専務	竹下　幸二	○	○
	後継社員	竹下　彰彦	○	○
有限会社山本産業	代表取締役	山本　廣達	○	○
有限会社ダイノーエッグ	代表取締役	古屋　　聡	○	
(有)宇田川養鶏	代表取締役	宇田川洸平	○	○
株式会社たなべたたらの里　たなべ森の鶏舎	取締役兼里長補佐	福留　周一	○	○
	副部長	堀　　賢一	○	○
株式会社大久保養鶏農場	代表取締役	大久保好文	○	○
	専　務	大久保文貴	○	○
有限会社藤増	代表取締役会長	藤江　昭雄	○	○
	統括場長	三登　達也	○	○
有限会社出雲畜産	代表取締役	田邊　隆揚	○	
歴代県養鶏協会関係者		安松　　智	○	○
歴代県養鶏協会関係者		吉田　政昭	○	○
公益社団法人島根県畜産振興協会	専務理事	川津　章弘	○	○
島根県養鶏協会事務局		土井　隆司	○	○
		今岡　知久	○	
		内田　悠介	○	
		佐々木育子	○	
		山野　由美	○	

記念講演

「養鶏産業の発展に向けて
関係機関との連携の視点から」

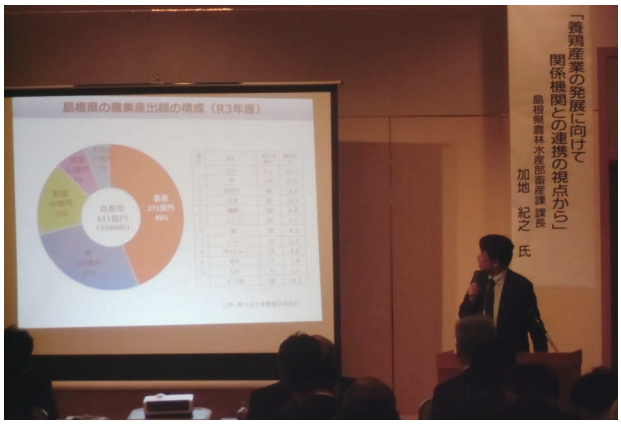
講師

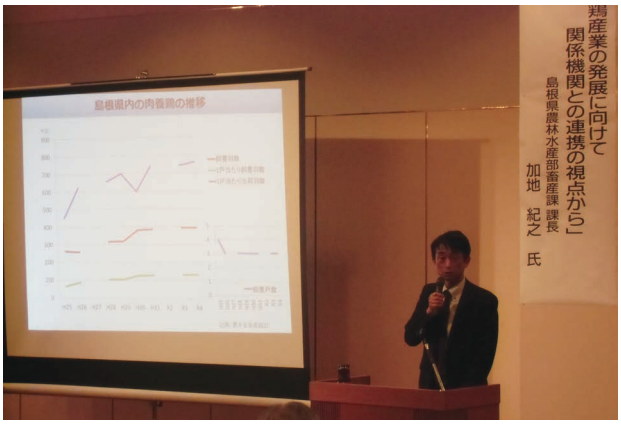
島根県農林水産部畜産課 課長
加地 紀之 様

記念式典に合せ、記念講演が行われ、島根県庁加地紀之畜産課長様から当協会へのエールが送られました。

島根県の養鶏業の特徴

・農場立地において養鶏場の密度が低い（農場間に距離がある）
・採卵養鶏では各農場にGPセンターを備え、スーパーや飲食店等へ直販している
・県内で販売される鶏卵の多くが県内で生産している
・県養鶏協会の団結力以下の面で発揮されている
　①鳥インフルエンザ対策
　②食品衛生対策（サルモネラ等）
　③美味しまね認証
　④生産基盤対策（畜産クラスター事業等）
　⑤飼料対策（耕畜連携）
　⑥アニマルウェルフェアの取り組み方向





島根県養鶏協会の概要

島根県養鶏協会の沿革ならびに主要行事

昭和46年８月　　島根県養鶏協会を組織することが決定。

昭和47年４月10日　出雲市農業会館　設立総会開催。
　初代会長は加納敬蔵氏
　会員100余名が参集
　会員数　180名
　事務局：島根県畜産会に設置
　会　長　加納敬蔵
　副会長　森脇智義
　理　事　立花秀市、狩野守夫、安達哲也、永瀬富雄、永見虎雄、月森佐臣、野津善行
　　藤田静男、山本幸夫、田中耕一、内田正樹、上野　浩、土江　肇、中西　明
　監　事　矢野春夫、遠藤友義、松田襄治

同日　第１回総会開催。

昭和48年　残りの任期から副会長の森脇智義氏が２代目の会長に就任。

昭和49年　総会により安達哲也氏が３代目の会長に就任（２期余り５年）。

昭和54年　狩野博美氏が会長に就任（３期６年）。

昭和57年　鶏糞利用の手引きを作成し、行政、農協等に配布。

昭和59年　消費者懇談会を安来普及所の協力を得て、この年初めて開催。消費拡大に向けた活動を開始する。平成２年まで継続。

昭和60年　福田定雄氏が４代目の会長に就任（５期10年）。

昭和61年　全国規模で採卵鶏経営を実施する関西の大型養鶏農場が県内羽須美村の養鶏団地を買収し、無断増羽を実施。卵流通を阻害する危険性があり、島根県養鶏協会は全国規模の決起集会を開催し業界全体を崩壊させかねない増羽に反対。その後、同社は倒産。

平成元年　この年はじめて、福祉施設等への卵の贈呈を開始する。開始当初は11か所41ケース（410kg）の配布。令和５年で45回をむかえ、当協会の重要な事業となっている。

平成２年　鶏卵供給安定推進組織緊急整備事業島根県組織整備委員会を開催。卵価の安定対策を本格的に取り組むこととなった。

平成３年　鶏卵需給安定特別指導事業（県事業）を開始する。
この年から会員が経営診断を受けることとし、経営把握に努めることを促進。

平成４年　島根県養鶏協会創立20周年記念行事を行い、発足当時方々の功をねぎらう。
この年から卵が需要に対し、供給過多となり、養鶏業界の大きな節目となる。

平成５年　会員がはじめて50名を下回り48名になった。

平成７年　土屋卓夫氏が第６代会長に就任（３期余り７年）。
卵価低迷から島根県に資金による安定対策を要請。この頃から卵価の下落幅が顕著になる。
消費拡大のためのゆでたまご配布と卵料理の試食を松江市京店カラコロ広場で実施。この後、農協単位で卵の消費者への配布実施することになる。

平成８年　鶏卵需給安定自主事業部の新たな事業内容が示され活動を開始する。

平成９年　竹下正幸氏（㈲旭養鶏舎）が日本農業賞島根県代表となり、JA島根中央会長賞とNHK松江支局長賞を受賞。

平成10年　竹下正幸氏（㈲旭養鶏舎）が朝日農業賞を受賞。
福田定夫氏が日本養鶏協会設立30周年記念行事で功労者表彰を受賞。

平成13年　肉畜鶏卵等出荷調整事業（県単）に取り組む。
平成３年度から実施を続けた経営診断事業は大部分の生産者が実施し終える。

平成14年　竹下正幸氏が７代会長に就任。副会長４名と合せ現体制を継続。

平成16年　日本国内で79年ぶりに高原性鳥インフルエンザが発生。
島根県養鶏協会においてもこれ以後、各種対策に取り組んでいく。
たまごトレサビリティを実施。
竹下正幸氏が平成16年度全国優良畜産経営管理技術発表会で農林水産大臣賞を受賞。
島根県養鶏協会が（公社）島根県畜産振興協会の会員となる。

平成17年　日本鶏卵生産者協会島根県支部を設立。

平成18年　島根県の各家畜保健衛生所の協力を得て消毒薬（ロンテクト）、手指消毒（ラビネット液）を配布し、高原性鳥インフルエンザ対策に本格的に取り組む。
第２回たまごかけごはんシンポジウムに協賛を開始し出展。これ以後今回まで継続。

平成19年　飼料価格削減の取り組みとして、この年から代替飼料として飼料米利用を推進。
島根県認証制度（「美味しまね」）への取り組みを開始。
飼料価格の高騰を受け、養鶏危機突破緊急全国生産者大会に参画。

平成20年　鶏の餌に飼料用米の利用を始め、本格的に「こめたまご」の販売を開始。
社団法人畜産技術協会によるアニマルウェルフェアのガイドラインが策定。
当協会の竹下正幸会長が委員として策定作業に加わる。

平成21年　美味しまね認証において当協会会員のうち10会員14品目が認証たまごを登録。
４月15日に島根県飼料用米推進協議会設立総会が開催され、島根県養鶏協会会員も取り組みに積極的に参加。
竹下正幸会長が（一社）日本鶏卵生産者協会副代表に就任。

平成22年　県内農家で11月29日に高原性鳥インフルエンザの疑似感染が発生、12月１日にH５亜型で確定。12月27日の移動制限解消まで、関係機関の協力を得ながら短期間で収束を迎える。
多くの機関、会社、個人の皆様から多大な義援金、お見舞、支援を発生農場ならびに島根県養鶏協会にいただき、発生農場も無事再開にこぎつけた。

平成23年　４月26日竹下正幸会長が㈳日本養鶏協会会長に就任。

平成24年　島根県養鶏協会でたまごレシピを作成し、卵消費拡大を促進。

平成25年　島根県議会　五百川純寿議員ならびに生越俊一議員を島根県養鶏協会顧問としておむかえする。

平成26年　配合飼料価格の高騰、防疫対策費用の経費負担の上昇から島根県に対して資金供給要請を実施。

平成27年　２月17日に島根県養鶏クラスター推進協議会を設置。養鶏業界において補助金を活用して施設、機械を整備することは画期的なこと。
配合飼料価格の高止まりに加え、卵価が不安定なことから、卵を食卓に普及する取り組みを積極的に行う。
島根県の支援によりＴＶ番組の製作を行い、会員の紹介等をメディアを通して行った。
たまごの消費者への理解のため、しまねのたまご～美肌手帖に着手。
島根県へ３点の要請活動を実施。以下の通り。
・配合飼料代替飼料しての飼料用米の安定供給のため、島根県飼料用米協議会を通じ、飼料用米を保管する借上げ料への補助支援

・鳥インフルエンザ検査の継続
・しまねのたまご消費拡大対策の継続

平成28年　たまごの消費拡大を促進するため、「しまねスマートフォンシステム」を開発した。
しまねのたまご～美肌手帖vol.2を発刊（初稿7500部を印刷）

令和 元年　配合飼料価格の高騰、配送費高止まりで養鶏農家の経営を圧迫。
島根県内養鶏農家は徹底したコスト削減を実施。

令和２年　国内において、新型コロナウイルス感染症の発生により、需要変化。
外食産業から巣ごもり需要にたまご販売もシフトされた。
島根県養鶏協会の各農家はその間、農場HACCP、GAP取得に向けた動きとなった。
JGAP等各認証取得する生産者が出始めた。
島根県養鶏協会内においてはJGAP指導員等を養成するため５名を推薦し受講させる。
島根県GAP生産者協議会設立総会が11月10日にあり、竹下正幸会長が同会の会長、また山本廣達副会長が県央地域リーダーに就任。
高原性鳥インフルエンザが18県52例発生し992万羽が防疫措置の対象となった。
県の交付金を活用して堆肥舎等への防鳥ネットを設置し、防疫体制を整えた。

令和３年　卵価は高原性鳥インフルエンザの発生により高値推移。
鶏肉については外食需要が減退し、巣ごもり需要にシフト。７割が家計消費に移行。
消費は例年並みに推移した。
一方で、配合飼料価格は第１四半期に８年ぶりの異常補てんが生じ、経営の圧迫が続いた。

令和４年　高原性鳥インフルエンザが例年よりも早く10月から発生。
シーズン中、26府県84事例により1,771万羽は防疫措置の対象となった。
２月以降、卵価は300円（全農：東京M　円/kg）を超す状況となった。
安心・安全・新鮮なしまねたまご、鶏肉を消費者に提供することを継続している。

令和 ５年　10月５日出雲市ラピタにおいて島根県養鶏協会設立50周年記念式典を盛大に開催した。丸山達也島根県知事をはじめ多数の来賓、出席者によって取り行われた。
島根県畜産課加地紀之課長から「養鶏産業の発展に向けて～関係機関との連携の視点から～」という演題で記念講演をしていただいた。

島根県養鶏協会会員数ならびに役員推移

年　度	総会回数	会　長	副会長				会　員　数	
S47	第１回	加納敬蔵	森脇智義				正会員数	180名
48	第２回	森脇智義	安達哲也				—	
49	第３回	安達哲也	狩野博美				—	
50	第４回	安達哲也	狩野博美				—	
51	第５回	安達哲也	狩野博美				—	
52	第６回	安達哲也	狩野博美				—	
53	第７回	安達哲也	狩野博美				—	
54	第８回	狩野博美	井上清一	福田定雄	永見虎雄	山﨑盛弘	—	
55	第９回	狩野博美	井上清一	福田定雄	永見虎雄	山﨑盛弘	—	
56	第10回	狩野博美	井上清一	福田定雄	山崎盛弘	奥迫　浩	—	
57	第11回	狩野博美	井上清一	福田定雄	山崎盛弘	奥迫　浩	—	
58	第12回	狩野博美	井上清一	福田定雄	山崎盛弘	奥迫　浩	—	
59	第13回	狩野博美	井上清一	福田定雄	山崎盛弘	奥迫　浩	—	
60	第14回	福田定雄	田中耕一	土屋卓夫	竹下正幸	奥迫　浩	正会員数	70名
61	第15回	福田定雄	田中耕一	土屋卓夫	竹下正幸	奥迫　浩	正会員数	71名
62	第16回	福田定雄	田中耕一	土屋卓夫	竹下正幸	奥迫　浩	正会員数	75名
63	第17回	福田定雄	田中耕一	土屋卓夫	竹下正幸	奥迫　浩	正会員数	68名
H元	第18回	福田定雄	田中耕一	土屋卓夫	竹下正幸	奥迫　浩	正会員数	64名
2	第19回	福田定雄	田中耕一	土屋卓夫	竹下正幸	奥迫　浩	正会員数	61名
3	第20回	福田定雄	田中耕一	土屋卓夫	竹下正幸	奥迫　浩	正会員数	55名
4	第21回	福田定雄	土屋卓夫	竹下正幸	井上正行	奥迫　浩	正会員数	51名
5	第22回	福田定雄	土屋卓夫	竹下正幸	井上正行	奥迫　浩	正会員数	48名
6	第23回	福田定雄	土屋卓夫	竹下正幸	井上正行	奥迫　浩	正会員数	43名
7	第24回	土屋卓夫	竹下正幸	井上正行	金築寿則	佐々木博	正会員数	39名
8	第25回	土屋卓夫	竹下正幸	井上正行	金築寿則	佐々木博	正会員数	36名
9	第26回	土屋卓夫	竹下正幸	井上正行	金築寿則	佐々木博	正会員数	32名
10	第27回	土屋卓夫	竹下正幸	井上正行	金築寿則	佐々木博	正会員数	32名
11	第28回	土屋卓夫	竹下正幸	井上正行	金築寿則	佐々木博	正会員数	29名
12	第29回	土屋卓夫	竹下正幸	井上正行	金築寿則	山本廣達	正会員数	28名
13	第30回	土屋卓夫	竹下正幸	井上正行	金築寿則	山本廣達	正会員数	27名
14	第31回	竹下正幸	井上正行	山本廣達	廣野祐二	福田賢治	正会員数	28名
15	第32回	竹下正幸	井上正行	山本廣達	廣野祐二	福田賢治	正会員数	28名
16	第33回	竹下正幸	井上正行	山本廣達	廣野祐二	福田賢治	正会員数	25名
17	第34回	竹下正幸	井上正行	山本廣達	廣野祐二	福田賢治	正会員数	25名
18	第35回	竹下正幸	井上正行	山本廣達	廣野祐二	福田賢治	正会員数	27名
19	第36回	竹下正幸	井上正行	山本廣達	廣野祐二	福田賢治	正会員数	26名
20	第37回	竹下正幸	井上正行	山本廣達	廣野祐二	福田賢治	正会員数	23名
21	第38回	竹下正幸	井上正行	山本廣達	廣野祐二	福田賢治	正会員数	23名
22	第39回	竹下正幸	井上正行	山本廣達	廣野祐二	福田賢治	正会員数	23名
23	第40回	竹下正幸	井上正行	山本廣達	廣野祐二	福田賢治	正会員数	22名
24	第41回	竹下正幸	井上正行	山本廣達	廣野祐二	福田賢治	正会員数	22名
25	第42回	竹下正幸	井上正行	山本廣達	廣野祐二	福田賢治	正会員数	20名
26	第43回	竹下正幸	井上正行	山本廣達	廣野祐二	福田賢治	正会員数	20名
27	第44回	竹下正幸	井上正行	山本廣達	廣野祐二	福田賢治	正会員数	20名
28	第45回	竹下正幸	井上正行	山本廣達	廣野祐二	福田賢治	正会員数	20名
29	第46回	竹下正幸	井上正行	山本廣達	廣野祐二	福田賢治	正会員数	20名
30	第47回	竹下正幸	井上正行	山本廣達	廣野祐二	福田賢治	正会員数	19名
R元	第48回	竹下正幸	井上正行	山本廣達	廣野祐二	福田賢治	正会員数	19名
2	第49回	竹下正幸	井上正行	山本廣達	廣野祐二	福田賢治	正会員数	18名
3	第50回	竹下正幸	井上正行	山本廣達	廣野祐二	福田賢治	正会員数	17名
4	第51回	竹下正幸	井上正行	山本廣達	廣野祐二	福田賢治	正会員数	18名
5	第52回	竹下正幸	井上正行	山本廣達	廣野祐二	福田賢治	正会員数	17名

社会貢献

社会貢献としての福祉施設等への卵贈呈

島根県養鶏協会の取り組みの中で、社会貢献として、平成元年度から毎年、福祉施設や老人施設の皆様に我々が生産した卵を御提供させていただいています。

御提供させていただいた卵は既にのべ21tにもなり、卵１個Mサイズを50gとすると42万個の卵を皆様に口にしていただいています。

当協会会員の鶏卵を贈呈させていただくと、お礼のお手紙やお言葉をたくさん頂戴し、「大変おいしくいただきました」というお言葉に加え、料理メニューや食べていらっしゃるお写真を同封していただいたりしており、生産者も続けてきて良かったと感じております。

福祉施設等への卵贈呈状況

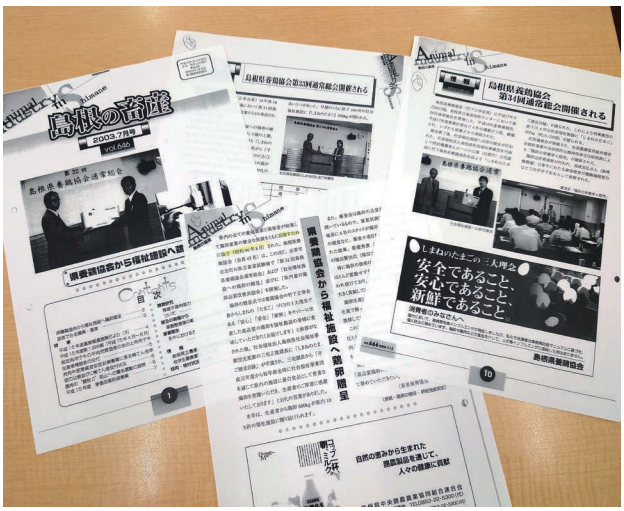
年　度	回数	共　通	
		福祉施設	老人施設
平成元年度	1 回	410kg	
平成 2 年度	2 回	510kg	
平成 3 年度	3 回	600kg	
平成 4 年度	4 回	630kg	
平成 5 年度	5 回	600kg	
平成 6 年度	6 回	580kg	
平成 7 年度	7 回	580kg	
平成 8 年度	8 回	560kg	
平成 9 年度	9 回	600kg	
平成10年度	10回	600kg	
平成11年度	11回	600kg	
平成12年度	12回	600kg	
平成13年度	13回	600kg	
平成14年度	14回	600kg	
平成15年度	15回	600kg	
平成16年度	16回	600kg	
平成17年度	17回	600kg	
平成18年度	18回	600kg	
平成19年度	19回	600kg	
平成20年度	20回	600kg	
平成21年度	21回	600kg	
平成22年度	22回	600kg	
平成23年度	23回	600kg	
平成24年度	24回	550kg	100kg
平成25年度	25回	580kg	100kg
平成26年度	26回	555kg	100kg
平成27年度	27回	520kg	100kg
平成28年度	28回	520kg	100kg
平成29年度	29回	525kg	100kg
平成30年度	30回	520kg	100kg
令和元年度	31回	505kg	100kg
令和 2 年度	32回	505kg	100kg
令和 3 年度	33回	500kg	100kg
令和 4 年度	34回	505kg	100kg
令和 5 年度	35回	505kg	100kg
総　計		20, 960kg	

注）35回の実施により、のべ約21t贈呈しています

卵贈呈式の模様

毎年県養鶏協会総会開催時に卵贈呈式を行い、社会福祉法人島根県社会福祉事業団ならびに島根県老人福祉施設協議会から代表の方においでいただき、目録を当協会会長からお渡しし、後日県養鶏協会各地区の会員から施設の皆様に卵を提供させていただいています。

配布させていただいた後、毎回たくさんのお礼のお手紙をいただいており当協会会員も感動しています



過去の卵贈呈式を記載した記事

島根県養鶏協会の
自己研鑽事業

鶏卵品質改善共励会

県養鶏協会では、会の発足当初から、出荷する鶏卵の品質の向上と安定化が消費者への卵理解に最も重要な課題として、県内農場全体の品質向上のための方策を模索してきています。

現存する資料として昭和50年に大規模に品質検査を実施した資料が残されています。

会の発足初期では、鶏卵の品質検査を実施してきたところですが、全体のレベルアップを図るために個々の検査で終えるのではなく、共励会という方法を採り、他者の品質の良い卵を目にして自己改善する場を作ることとし、関係機関の協力のもと開催することとしました。

昭和53年度から鶏卵品質共励会を新たに開始した結果、本事業は会員に定着し当協会で最も古い事業として現在も継続してきています。

卵の品質は会員にとって最も大きな関心事であると同時に消費者の関心事項でもあります。

①「卵型」、②「汚れ・しみ等」、③「卵殻強度」、④「卵殻厚」、⑤「卵重」、⑥「卵黄色」、⑦「ハウユニット」の７項目を検査し、専門家の方々から御批評いただき、会員は日々品質の高い卵作りに努めてきており、「しまねのたまご」の品質向上も進んでおります。

その間、多くの専門家の方々から多くの御指導や対応をいただいており、会員一人一人が感謝しているところです。

鶏卵品質改善共励会実施結果

年度	開催回数	最優秀賞農場	市町村名	共励会参加人数	備　考
S47					第１回総会
S48					
S49					
S50					
S51					
S52					
S53	第１回	土屋卓夫	大東町	－	
S54	第２回	土屋卓夫	大東町	58	第８回総会
S55	第３回	土屋卓夫	大東町	49	
S56	第４回	土屋卓夫	大東町	49	第10回総会
S57	第５回	土屋卓夫	大東町	60	
S58	第６回	―		51	
S59	第７回	上野泰知	斐川町	39	
S60	第８回	―		50	
S61	第９回	黒崎隆幸	平田市	50	
S62	第10回	三島依子	宍道町	55	
S63	第11回	小川信之	浜田市	63	
H１	第12回	土屋卓夫	大東町	58	
H２	第13回	田中耕一	安来市	58	
H３	第14回	広野祐二	木次町	52	第20回総会
H４	第15回	福田侈彦	平田市	49	
H５	第16回	田中耕一	安来市	40	
H６	第17回	西尾淳三	平田市	40	
H７	第18回	―		35	
H８	第19回	―		28	
H９	第20回	―		28	
H10	第21回	六日市ファーム	六日市町	28	
H11	第22回	―		28	
H12	第23回	㈲ダイノーエッグ	六日市町	24	
H13	第24回	―		22	第30回総会
H14	第25回	㈲旭養鶏場	大田市	18	
H15	第26回	㈲福田ファーム	平田市	21	
H16	第27回	㈲旭養鶏場	大田市	21	
H17	第28回	㈲福田ファーム	出雲市	18	
H18	第29回	森脇鶏農場	雲南市	22	
H19	第30回	㈲福田ファーム	出雲市	22	
H20	第31回	森脇鶏農場	雲南市	15	
H21	第32回	井上養鶏場	安来市	16	
H22	第33回	㈲福田ファーム	出雲市	17	
H23	第34回	井上養鶏場	安来市	16	第40回総会
H24	第35回	ヤマオキ養鶏場	松江市	16	
H25	第36回	㈱田部　田部養鶏場	雲南市	15	
H26	第37回	ヤマオキ養鶏場	松江市	15	
H27	第38回	㈲カリノ養鶏	雲南市	16	
H28	第39回	ヤマオキ養鶏場		14	
H29	第40回	井上養鶏場	松江市	14	
H30	第41回	㈲福田ファーム	出雲市	13	
R１	第42回	㈲旭養鶏場	大田市	13	
R２	〈新型コロナ感染症のため中止〉				
R３	第43回	㈲旭養鶏場	大田市	12	第50回総会
R４	第44回	㈲旭養鶏場	大田市	12	
R５	第45回	㈱たなべたたらの里 たなべ森の鶏舎	雲南市	11	第52回総会

注）最優秀賞農場の「－」については過去資料のため確認できない

昭和50年1月15日　島根の畜産　第361号　第三種郵便物認可　(8)

鶏卵の品質検査行なわれる

配合飼料の値上りで、自家配合に切り替える農家が増えることが予想され、適切な配合がなされないと鶏卵の品質に悪影響が現われ、このため不評を買うことがある。そこで共販鶏卵の品質の向上を図るため抜取り検査方法によって県経済連の主催で十一月二十七日県畜産試験場において鶏卵の品質検査を行なった。その結果は次の通りであった。

一、卵殻の厚さ

(1) 斐川の№一二一～一四〇の一七Mの卵殻はやや薄いが、鶏の日令関係があるので、一概に薄いとは言えない。

二、卵黄色

(1) 平田の自配№一四一～一六〇は二種混合、乾燥緑餌の割合を若干多くする必要がある。

(2) 斐川の№八一～一〇〇の一七M、№一二一～一四〇の一七M、平田の№一六一～一八〇の一七M、№一八一～二〇〇の一七Mはバラ付が多かったが、鶏の個体差の違いがでていると思われる。

三、ハウユニット

(1) 卵重と卵白の高さをもって算定し、鮮度の判定ができる。新鮮なもの、および、日令の若いもの程数値が高く、七〇・〇以上あれば普通とみなされる。

(2) 平田の№一六一～一八〇は、そう悪くはないが、三日前の卵であったため七一・一一の数値になったと思う。

四、卵黄係数

(1) (卵黄高÷卵黄巾)をもって算定する。

〇・四以上であれば普通とみなされるので、全般に問題がなかった。

五、酵素剤添加飼料

(1) 大東の№六一～八〇の酵母入りは、大東グループの中では劣っているが、№四一～六〇のネッカリッチ添加と較べ、ネッカリッチ入りが特に良いとは言えなかった。

(2) 全般にビタコーゲンとネッカリッチ添加卵を比較しても品質的な優劣は認められなかった。もっとはっきりした数値がでないと、その添加剤の良し悪しの判断はできない。

六、まとめ

(1) №一六、一七エッグマッシュについては問題がなかった。

(2) 自配は、卵黄色に問題が起りやすいので、配合割合に気をつける必要がある。

(3) ビタコーゲン、ネッカリッチ、酵母入りの鶏卵が特に良質とは認められなかった。

(4) 今回の検査では、同日令、同日産卵の卵でなかった故、適格な判断はできなかったので、参考程度にとどめられたい。

(5) 割卵検査するさいは、透明なガラス板の上でないと判断を誤るので、念のためつけ加えておく。

(県経済連)

割卵検査成績

区分	卵殻厚	卵黄色	ハウユニット	卵黄係数	備考
大東16M（シェーバー）	0.378±0.030	8.30 ± 0.47	93.25± 6.40	0.497±0.017	26日産卵（A 1～ 20）
〃 ⑥回（〃）	0.345±0.043	8.90 ± 0.55	88.22± 5.20	0.463±0.014	26日産卵（A21～ 40）
〃 高松6割 自配4割 16M天然 自配4割（ハイライン）	0.365±0.033	7.55 ± 0.51	83.95± 6.57	0.514±0.020	ネッカリッチ入り 26日産卵（A41～ 60）
〃 （〃）	0.368±0.041	7.95 ± 0.52	74.70± 9.95	0.492±0.017	武田酵母入り 26日産卵（A61～ 80）
斐川17M（バブコック）	0.348±0.038	6.58 ± 1.11	75.90±11.26	0.454±0.026	25日産卵（ 81～100）
〃 16M 3割 自配 7割（〃）	0.395±0.029	7.75 ± 0.58	89.30± 4.89	0.501±0.014	ビタコーゲン入り 26日産卵（101～120）
〃 17M（〃）	0.318±0.024	7.95 ± 0.95	74.80± 7.19	0.456±0.022	24日産卵（121～140）
平田 自配（赤玉種）	0.348±0.030	6.40 ± 0.75	72.30±13.55	0.462±0.014	赤天 24日産卵（141～160）
〃 17M（バブコック）	0.335±0.037	7.74 ± 1.20	71.11±11.84	0.451±0.030	ビタコーゲン入り 24日産卵（161～180）
〃 〃（コトブキ赤玉 ハイライン）	0.343±0.029	8.53 ± 0.91	74.30±13.45	0.467±0.017	ネッカリッチ入り 26日産卵（181～200）

(S. 49. 11. 27. 割卵・審査)

五〇年の干支〝卵〟に因み

ウサギは童話に出てくるように、かわいらしく、耳が長くよく音を聞き、後肢が長くよく飛び、目が赤く毛が白色または、褐色が通例ですが現在では飼ウサギも改良が加えられ種類もさまざまです。

品種は数十種以上に及び、用途別にすれば次の五群に分類されます。

①毛皮用品種（チンチラ種）（レッキス種）

②毛用品種（アンゴラ種）

③肉用品種（ベルジアン種）（フレミシュ種）

④兼用種（ニュージーランド＝ホワイト種）（白色日本種）

⑤愛がん用品種（ヒマラヤン種）ポーリッシュ種）などです。

日本で飼育されているのは、白色日本種とアンゴラ種が大部分です。

野ウサギは山野のかん木の下や、岩陰などに巣をつくり、樹木の皮や芽を食べています。繁殖時期は一～六月が主で約一カ月間隔で数回出産し、妊娠期間は二十八日で、ほかの月にもまれに子どもを産みます。日本の飼ウサギは、室町時代にオランダ人によってもちこまれたといわれていますが、江戸時代には食肉用として飼われ、ウサギの市もひらかれていました。当時は仏教の影響で獣類の肉は食べないという風習があったので、ウサギを鳥に見たてて一羽二羽とかぞえました。このよび方が現在でもいいならわされているのです。

肉は味がサッパリして腎臓病、高血圧等の病に良いといわれています。毛皮は軟く美しいので防寒服、エリ

昭和50年の卵品質検査の記事（資料提供「島根の畜産」）

研修会の実施について

島根県養鶏協会では会発足当初から会員の資質向上のために研修会に積極的に参加してきています。

その後、会員からテーマを掘り下げたものに参加したいという意向が出始めたので、平成４年以降、島根県養鶏協会が主催する研修会を毎年実施することとしました。

さらに家畜防疫、飼育環境の課題が重要になってからは島根県鶏病研究会の協力を得て、共催という形の研修会開催に変貌し現在に至って至っています。

近年は高病原性鳥インフルエンザが全国的に多発しているため、発生しないための予防措置や発生したときの速やかな対応について専門家の先生から学んできており、島根県では10年以上鳥インフルエンザを発生させておりません。

主催「技術等研修会・講演会」実施一覧（共催を含む）

年度	講演内容・講師	日付
H４	・卵価低迷の実態と打開策 全農近畿畜産センター　榎本　健藏	平成４年７月20日
H５	・21世紀心の時代を語る 光明寺　守塔　杉原　顕道	平成５年６月29日 （県と共催）
H６	・日本養鶏の現状と将来 株式会社アキタ産業　社長　秋田　善祺	平成６年６月28日
H７	・鶏病予防と衛生対策 全農家畜衛生研究所クリニックセンター　鈴木　悟郎	平成７年６月29日
H８	・今輝いていますか 鳥取女子短期大学　盆子原志恵子	平成８年７月28日
H９	・最近の鶏卵情報並びにこれから鶏卵に求めるもの 全農近畿畜産センター　鶏卵部長　真苅　弘	平成９年６月26日
H10	・タマゴの安全性と中国地区のサルモネラの動向について キューピー株式会社広島支店　タマゴ営業課長　本郷　裕史	平成10年６月30日
H11	・低コストによるGPのHACCPの対応について ゴールドエッグ株式会社　専務取締役　村上　和秀	平成11年６月29日
H12	・島根の養鶏が生き残る道 農林漁業金融公庫　松江支店長　加藤　哲	平成12年６月23日
H13	・最近の鶏卵情勢と生産・販売に求められるもの 全国農業協同組合連合会近畿畜産センター　森　信之	平成13年６月22日
H15	・クリニックから見た採卵養鶏の鶏病対策について 全国農業協同組合連合会家畜衛生研究所 クリニックセンター　所長　平井　秀敬	平成15年６月27日
H16	・鳥インフルエンザの発生と対策について 全国農業協同組合連合会家畜衛生研究所　所長　柴田　勲	平成16年６月25日
H17	・鶏卵の栄養学と販売 全農中央研究所　主任研究員　剱持　和幸	平成17年６月24日
H18	・高病原性鳥インフルエンザの防疫 （独）農業・生物系特定産業技術研究機構 動物衛生研究所　部長　山口　成夫	平成18年６月23日
H19	・飼料の価格の課題 全国農業協同組合連合会近畿大阪畜産事業所 単味飼料・原料課長　野上　茂	平成19年６月22日
H20	・島根県に見られる野鳥 （財）ホシザキグリーン財団ホシザキ野生生物研究所HOWP 調査研究課長　森　茂晃	平成20年６月20日

年度	講演内容・講師	日付
H21	• 養鶏産業と飼料米・日本農業再生の可能性 （一社）日本鶏卵生産者協会　会長代理　緒方　忠浩 • 採卵鶏農場の衛生管理に関する情報 島根県農林水産部農畜産課　主任　加地　紀之	平成21年６月29日
H22	• 健康を維持する食事と栄養 島根大学医学部付属病院臨床栄養部　副部長　川口美喜子 • 養鶏衛生とサルモネラについて 島根県農林水産部食料安全推進課家畜病性鑑定室 主任研究員　船木　博史	平成22年６月25日
	• 最近話題の鶏病の疫学と対策 鶏病研究会	平成22年10月15日
H23	• ニューカッスルの予防と防疫対策 （独）農業・食品産業技術総合研究機構動物衛生研究所 ウイルス・疫学研究領域　主任研究員　真瀬　昌司 • 養鶏場の防疫における消毒について 食品・環境衛生研究所　主宰　横関　正直 • 養鶏場の衛生管理について 全国農業協同組合連合会家畜衛生研究所クリニック　室長　新沼　信吾	平成23年９月27日
H24	• サルモネラワクチンに関する最新情勢 ㈱微生物化学研究所技術企画部　兼重　貴裕 • 家禽と野鳥におけるＨ５Ｎ１高病原性鳥インフルエンザ感染症 （独）農業・食品産業技術総合研究機構　動物衛生研究所 病態研究機構　山本　佑	平成24年６月22日
	• 高病原性鳥インフルエンザの疫学 （独）農業・食品産業技術総合研究機構　動物衛生研究所 ウイルス・疫学研究領域　領域長補佐　筒井　俊之 • サルモネラの取り組みについて （社）日本養鶏協会　専務理事　島田　英幸	平成24年10月４日
	• 絶食または絶食を伴わない誘導換羽の紹介と最近の鶏種性能の比較 全国農業協同組合連合会飼料畜産中央研究所養鶏研究室　谷東　修	平成25年３月21日
H25	• 鳥インフルエンザの現状と対策 島根県農林水産部食料安全推進課家畜病性鑑定室 主任研究員　石倉　洋司 • 東京事務所からの報告～農伊林水産行政と県産品販路拡大の状況 東京事務所課長　加地　紀之	平成25年６月21日
	• サルモネラの現状と対策 （一社）化学及血清療法研究所ワクチン製造三部動物臨床検査室 永井　寿宗 • 鳥獣の畜舎侵入防止対策の現状と問題点 （独）農業・食品産業技術総合研究機構　中央農業総合センター 情報利用研究領域　百瀬　浩	平成25年10月４日
	• ワクモの清浄化に向けての知識と意欲について 全国農業協同組合連合会家畜衛生研究所研究開発室 獣医学博士　村野多可子	平成26年３月27日
H26	• ６次産業化とは 島根県農林水産部しまねブランド推進課　調整監　鳥屋尾健史 • ６次産業化の実務 株式会社農援隊　部長　宮崎　稔 • 高病原性鳥インフルエンザについて 鳥取大学農学部共同獣医学科獣医衛生学　教授　山口　剛士	平成26年６月13日
	• 養鶏場でのねずみを減らすには 東洋産業株式会社技術部研究室　室長　大野　竜徳 • 平成26年４月に熊本で発生した高病原性鳥インフルエンザ（N5H8）について （独）農業・食品産業技術総合研究機構　動物衛生研究所 インフルエンザ・プリオン病研究センター長　西藤　岳彦	平成26年10月７日

年度	講演内容・講師	日付
H27	• 高病原性鳥インフルエンザの現状と今後の課題 国立大学法人北海道大学　大学院獣医学研究科　教授　迫田　義博	平成27年６月19日
	• 岡山県内で発生した高病原性鳥インフルエンザについて 岡山県井笠家畜保健衛生所　主任　高崎　緑 • 鶏卵のSE汚染とSE食中毒の世界的傾向：日英米の比較 北里大学　客員教授　中村　政幸	平成27年10月13日
	• 卵の品質確保と販売について ㈲畠中育雛場　代表取締役　畠中五恵子	平成28年３月24日
H28	• 農場HACCPの現状と展望 （公社）中央畜産会　衛生指導部　主幹　山谷　昭一	平成28年６月16日
	• 飼養衛生管理基準について （公社）島根県畜産振興協会　家畜衛生部長　川上　祐治 • 鳥インフルエンザを経験して 深川養鶏農業協同組合　代表理事組合長　末永　明典	平成28年10月14日
H29	• 野生動物の農場内侵入実態と高病原性鳥インフルエンザウイルス伝播の可能性 鳥取大学農学部獣医疫学研究室鳥由来人獣共通感染症疫学研究センター 病態学研究部門兼任教授　山口　剛士	平成29年６月27日
	• 野鳥と鳥インフルエンザの関係 （一財）自然環境センター　主幹　米田久美子 • 持続可能な畜産のためのJGAP認証～日本版畜産GAPの概要と取り巻く環境 （一財）日本GAP協会　理事　澤田　一彦	平成29年10月27日
H30	• 伝染性気管支炎の現状と対策及びワクチン対策の基礎 （一社）化学及血清療法研究所 獣医師　有吉理佳子	平成30年６月７日
	• 国内で発生した高病原性鳥インフルエンザの疫学調査について 国立法人鳥取大学農学部共同獣害獣医学科獣医公衆衛生学研究室 教授　伊藤　寿啓 • 鶏卵情勢について JA全農たまご株式会社　西日本営業本部第１営業部鶏卵課 課長代理　青谷　誠 • 直近の食鳥情勢について 全農本所畜産生産部推進開発課　剱持　和幸 • 鶏糞低減のコンセプトと実用事例について 全農飼料畜産中央研究所養鶏研究室　池田謙太郎	平成30年10月９日
R１	• 養鶏場におけるバイオセキュリティ 東京農工大学農学部獣医学科　教授　竹原　一明	令和元年６月６日
	• 鶏卵GPセンターにおけるHACCP認証に向けて JA全農たまご株式会社品質保証部　部長　佐々木栄蔵	令和元年10月24日
R２	• 伝染病疾病に対する備え 島根県農林水産部農畜産課家畜病勢鑑定室 • 飼養衛生管理基準の改正 島根県農林水産部農畜産課	令和２年10月29日
R３	• 2020－21シーズンにおけるHPAZ発生状況 島根県農林水産部農畜産課　GL　濱村圭一郎	令和３年６月27日
	• 伝染性疾病に対する備え～昨シーズンの鳥インフルエンザ発生を振り返り 島根県農林水産部農畜産課家畜病性鑑定室 専門研究員　石倉　洋司	令和３年10月28日
R４	• 養鶏獣医師の現場視点及び現場レベルのHPAZ対策指導について ㈱ESAC　代表取締役　永井　寿宗	令和４年６月17日
	• 生産現場で遭遇する鶏の異状～傾向と対策 合同会社KPSC　金田　正彦	令和４年11月１日
R５	• 鳥取県初となる高病原性鳥インフルエンザ発生対応 鳥取県倉吉家畜保健衛生所　所長　小谷　道子	令和５年７月７日
	• それってほんとに病気ですか？　～産卵低下事例を中心に～ ひなもり家畜診療所　診療所長　渡邊拓一郎	令和５年10月30日

鶏卵消費拡大の取り組み

鶏卵　消費拡大

卵消費拡大の取り組み

島根県養鶏協会では会の発足当初から鶏卵の消費拡大について、いろいろと模索しながら各種取り組みをおこなってきました。

今までに実施してきた事柄は、JA婦人部・女性部等への卵料理教室の実施、卵を利用した料理の試食会、えごまを飼料に活用した卵の栄養を大学と協力しておこなってきたこと、さらに卵料理を大規模にPRする展示会の実施を消費者との交流のもとおこなってきました。

島根県内大型スーパーマーケット様、市場様に当協会会員が出かけ、卵流通実態調査の毎年の実施、JAの各地区のイベントでの卵の配布、令和５年度には19回をむかえる「日本たまごかけごはんシンポジウム」開催の協賛、しまねのたまご～美肌手帖～という小冊子（vol.1～３）の製作と各種イベントへの配布、しまねのたまごDVD制作と卵販売が低迷する毎年２月に実施するテレビCMの放映などは、島根県や（一社）日本養鶏協会様ならびに当協会賛助会員の協力を得ながら卵消費拡大のための事業を現在も継続して実施してきています。

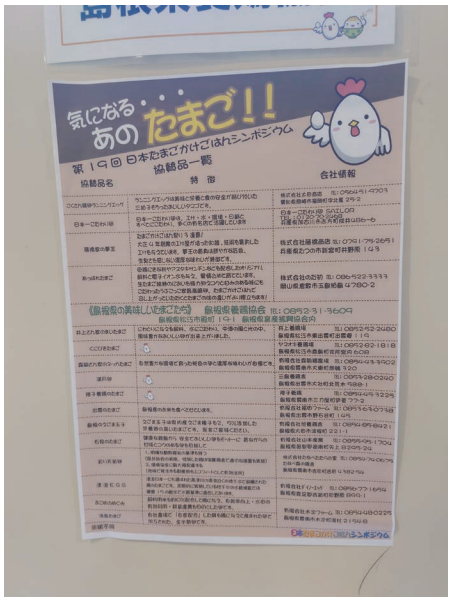
JA祭

華密恋

2014/03/14

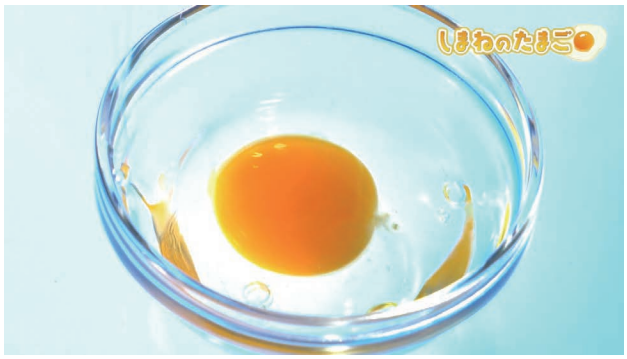
生協しまね
あなたのくらしを応援します！
2015年度
生協しまね 産直こめたまご 田植え交流会

日本たまごかけシンポジウム



美肌手帳・DVD作成と配布

テレビCMの活用



島根県養鶏協会役員体制

令和５年10月現在

会　長：竹下　正幸（有限会社旭養鶏舎　取締役会長）
副会長：井上　正行（井上養鶏場　代表）
副会長：山本　廣達（有限会社山本産業　代表取締役）
副会長：廣野　祐二（有限会社木次ファーム　代表取締役）
副会長：福田　賢治（有限会社福田ファーム　取締役会長）
理　事：村上　佳久（村上養鶏場　代表）
理　事：古屋　　聡（有限会社ダイノーエッグ　代表取締役）
理　事：森脇　　誠（有限会社森脇鶏農場　代表取締役）
理　事：竹下　靖洋（有限会社旭養鶏舎　代表取締役社長）
理　事：福留　周一（株式会社たなべたたらの里　たなべ森の鶏舎　取締役兼里長補佐）
理　事：大久保好文（株式会社大久保養鶏農場　代表取締役）
理　事：若月　康介（島根県農業協同組合畜産部　畜産課長）
理　事：嘉本　英文（JA西日本くみあい飼料株式会社　中国支店山陰営業所　所長）
理　事：野々村稔秋（島根県農業協同組合雲南地区本部　畜産課長）
理　事：山﨑　眞男（島根県農業協同組合石見銀山地区本部　畜産課長）
理　事：品川　克弘（島根県農業協同組合島根おおち地区本部　畜産課長）

監　事：安達　俊一（ヤマオキ養鶏場　代表）
監　事：山根　敏行（島根県農業協同組合くにびき地区本部　指導販売課長）
監　事：原　　崇（島根県農業協同組合出雲地区本部　次長）

島根県養鶏協会会員名簿

島根県養鶏協会は生産者である17会員と生産者を支援いただく団体17会員の合計34会員で構成されています。

令和５年10月１日現在

1　正会員（生産者）（17会員）

	正会員	
	事業所名	代表者役職・氏名
1	久保田養鶏場	代表　久保田耕司
2	井上養鶏場	代表　井上　正行
3	ヤマオキ養鶏場	代表　安達　俊一
4	有限会社森脇鶏農場	代表取締役　森脇　　誠
5	有限会社木次ファーム	代表取締役　廣野　祐二
6	障子養鶏	代表　障子　勝康
7	有限会社福田ファーム	代表取締役　福田　竜哉
8	三島養鶏場	代表　三島　一勇
9	有限会社旭養鶏舎	代表取締役社長　竹下　靖洋
10	有限会社山本産業	代表取締役　山本　廣達
11	村上養鶏場	代表　村上　佳久
12	有限会社ダイノーエッグ	代表取締役　古屋　　聡
13	株式会社宇田川養鶏場	代表取締役　宇田川洸平
14	株式会社たなべたたらの里　たなべ森の鶏舎	（代表取締役社長　田部長右衛門） 取締役兼里長補佐　福留　周一
15	株式会社大久保養鶏農場	代表取締役　大久保好文
16	有限会社藤増	代表取締役会長　藤江　昭雄
17	有限会社出雲畜産	代表取締役　田邊　隆揚

2　賛助会員（関係機関団体）（17会員）

	賛助会員
	事業所名
1	島根県農業協同組合
2	JA西日本くみあい飼料株式会社
3	島根県農業協同組合くにびき地区本部
4	島根県農業協同組合雲南地区本部
5	島根県農業協同組合出雲地区本部
6	島根県農業協同組合石見銀山地区本部
7	島根県農業協同組合島根おおち地区本部
8	一般社団法人島根県配合飼料価格安定基金協会
9	有限会社山陰ネッカリッチ
10	島根米穀株式会社
11	MPアグロ株式会社
12	日本レイヤー株式会社
13	内外飼料株式会社
14	有限会社飯塚豊市商店
15	有限会社システムサービスマツモト
16	豊橋飼料株式会社
17	株式会社N.G.C.

島根県養鶏協会会員農場位置図

島根県養鶏協会設立50周年検討委員

竹　下　正　幸

井　上　正　行

山　本　廣　達

廣　野　祐　二

福　田　賢　治

大久保　好　文

森　脇　　誠

〈事務局〉

川　津　章　弘

土　井　隆　司

島根県養鶏協会
設立50周年記念誌

令和６年３月発行

編集・発行　島根県養鶏協会
〒690-0887 島根県松江市殿町19番地１
島根JAビル別館４F
公益社団法人 島根県畜産振興協会内
電話 0852－31－3609　FAX 0852－21－4481

製作・印刷　有限会社 高浜印刷
〒690-0133 島根県松江市東長江町902－57
電話 0852－36－9100　FAX 0852－36－5775

50th

Shimane
Poultry
Association